

富士の社

川向を歩く

匠探訪

— 74 —

7月1日は全国的に「山開き」、「海開き」が行われる日です。山開きは古くからの信仰行事で、この日に神が住む霊山に入ることを許されたことが由来とされています。

市内でもこの日に「浅間まいり」が続けられている地域もあるようです。浅間神社は富士山への信仰で、明治時代前期の千葉県『神社明細帳』によると、その分布は全県に及んでいます。昭和初期の調

査では、全国の中で千葉県内が最も多く浅間神社がまつられているとされます。

現在、千葉県宗教学人名簿に登録された市内66の神社のうち、浅間神社は3社だけです。『神社明細帳』には旧八日市場市は市原市、佐倉市に次いで多い16社が記載されています。明治になって地区の鎮守神となったのは3社だけです。他は江戸時代後期にまつられた浅間社がそのまま残されています。

川向区(平和地区)には、富士嶽神社がまつられています。この社は地域の多くの浅間宮が明治初年に浅間神社として登録した中で、富士嶽神社とした珍しい例といえます。

江戸時代の川向村は、現在の市域58か村(現在の大字)のうち、1840年ごろの家数11軒で最小の規模でした。

富士嶽神社は、「浅間宮」と刻まれた石祠(石宮)が1795年にまつられたことに由

来します。石宮は2基あり、他は1808年の年号がある「香取大明神 鹿島大明神 息栖大明神」と彫られた三社宮です。古くから軍神として尊崇された香取・鹿島に息栖を加えた東国三社巡りの流行をこの石宮にみる事ができます。境内にはもう一社、三峯神社もまつられています。

川向区は匠瑳市と旭市を結ぶ県道104号線(八日市場井戸野旭線)に沿って集落があり、東は旭市泉川に接しています。「川向」という地名を、川に面した集落という意味に理解できそうです。周辺の古地図などの資料がなく、耕地整理などで大幅に地形が変わった現在では推測するしかありませんが、その川の名は「念仏川」ではないでしょうか。

富士嶽神社は平成5年1月、17人の奉納者により石宮に覆屋根がかけられ本殿とし、石の鳥居も建てられました。境内の記念碑には「川向浅間宮」とあり、200余年前にまつられた石宮を守り続けようとする人たちの心意気が伝わるようです。

同秘書課広報広聴班
☎ 73・0080



川向浅間宮の石宮 (左側)